

愛知山労

愛知県勤労者山岳連盟
機関紙

2011年10月21日発行

No. 467 (第43期07号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町2-8 栄和産業(株)ビル2F

TEL/FAX 052-654-1210

<http://aichirousan.web.fc2.com/>



秋の清掃登山(2011年10月16日 武豊自然公園にて)

《目次》

巻頭言	「個人会員制」導入提案きちんとした手順、論議を尽くして	2
	県連第43期各会代表者会議が開かれました	3
婦人部	第2回交流登山実行委員会が開かれました	8
	婦人部 交流登山のお知らせ	9
自然保護部	9月15日 第4回自然保護担当者会議を開催しました	10
遭対部	第10回東海ブロック雪崩講習会を実施します	12
スケジュール		14

巻頭言

「個人会員制」導入提案

きちんとした手順、論議を尽くして

愛知県勤労者山岳連盟理事長 洞 井 孝 雄

10月3日、各会代表者会議が開かれ、加盟22山岳会中18山岳会から34名が出席し、県連盟第43期上半期の活動の総括と下半期の活動の方向の確認、昨年2月に全国連盟から提案され、来年3月の全国総会で導入の可否について議論されることになっている「個人会員制度」について討議がおこなわれました。会議では、遭対部からの「事故をなくすためにどうすべきか?」、自然保護部の「どう自然に関心を持つ仲間を増やし、育てていくか」、組織部の「会員数など基礎数値の集約と各山岳会の集中、組織拡大の意識的追求」、婦人部の「各会の女性会員のネットワーク作り」、教育部の「県登研実施とテーマ」など、それぞれ専門部から取り組みに関わっての報告と問題提起がなされました。専門部の報告に続いて、「個人会員制度導入の具体的提案・第2次案」にかかわっての報告がなされましたが、午後からの討論では、発言の多くは、「個人会員制度にかかわる」問題に集中しました。

愛知県連では、全国連盟からこうした提案がなされる都度、各加盟山岳会に対して、それらについての討論・検討をお願いし、意見を集約して態度を表明してきました。今回の代表者会議では、今年7月に出された「第2次案」と、昨年、「個人会員制度導入」の提案がなされた際に作成した資料、これまでの経過を整理したものをあわせて討論の資料としました。この「資料」のなかには、2001年に提案された「個人会員制度導入」にかかわる愛知県連盟の態度を明確にした資料も含まれています。改めて目を通してみると、10年前の提案と今回の提案とは、その提案理由も内容も本質的にほとんど変わっていないことに驚きます。以前の提案の際には、愛知県連では、各山岳会が自らの会、会活動を見直すいい機会だ、というとらえ方と討論の提起をしましたが、今回の提案とそのすすめ方を見ると、「山岳会」だけの問題ではなく、「労山」という登山団体そのものを根底から「変質」させてしまうような感じを受けます。

この提案の取り扱いの過程で、最も注意する必要があるのは、いくら反対意見を述べても、それらが「提案の補強意見」とされてしまったり、「(全国連盟が) やるというんだからやってみたら?自分たちは反対だけれど…」という姿勢で、組織にかかわる本質的な議論を避けたまま素通りしていつてしまったりすることです。こうした点にも触れながら、県連盟としての問題提起を行い、代表者会議の討論(というより質疑応答と、各山岳会としての討論や意見集約のような形になりましたが)を行いました。各会代表者から述べられた意見を集約した形で、「第2次案」について愛知県連は反対の立場をとることが確認されました。これから全国評議会、全国総会へ向けて、個人会員制導入の提案が議論の中心となっていくと考えられますが、きちんと手順を踏みながら、論議を尽くしていくことが大切です。

県連第43期各会代表者会議が開かれました



各会代表者会議(2011年10月3日 県連盟事務所にて)

2011年10月3日(日)県連事務所で愛知県連第43期各会代表者会議が開かれました。主要な議題は、第43期の上半期の活動総括と下半期の活動の方向を確認することですが、11月3日に控えた全国評議会に向けて、7月に提案された「個人会員制度導入にかかわる第2次案」についての、愛知県連盟の態度を決めることも大きな課題になっていました。

当日の資料は、『労山愛知』No.466(9月16日発行:代表者会議への各専門部の中間総括(案)が掲載されています)、別刷りで各専門部活動資料、さらに「個人会員制度」導入に関わる資料集(50ページ、これまでの討論資料、第2次案などを整理しまとめたもの)が出されました。出席者は18山岳会34名。

代表者会議では、冒頭に洞井会長・理事長が立ち、今回の代表者会議の課題と県連活動の概括について報告、その後、各専門部長からそれぞれの活動報告とこれからの課題について報告がなされました。ついで、再び洞井会長・理事長から、全国連盟から7月に出された「個人会員制度導入第2次案」について、この提案が出されてきた経過とこの間の討論、愛知県連の取り組みが紹介され、その後昼食休憩に入りました。

午後からは、午前中に報告された内容についての質疑応答、および討論をおこないました。主な内容は以下のとおりです。

【質疑応答】

板津(半田): 遭対の報告で、「事故をどうやって防止するのか」という提起とともに、リーダー養成の提案があったが、県連としてどのようなリーダー養成の方向、具体的なイメージがあるか、あれば

教えてほしい

A: リーダー養成については、先日の遭対担当者会議で、東三河山ぼ会から穂高岳での落石死亡事故の報告とともに、そ

の際の当該パーティーの会への連絡が遅れたことや、落石を起こしたパーティーの事故前後の動きやリーダーの対応など、いくつかの反省点や問題点が出され、その上で、リーダー養成の必要性が述べられた。担当者会議では、そうしたリーダー養成を会単独で行うよりは、山岳会が横断的に事例や意見を出し合い、リーダーとしての基本を共有できるようにしたい、さらにこの課題は急がれる課題なので、スタンダードが決まってから、ということよりも今できること、必要なことからスタートして造っていくことが大事だ、ということが議論された。その後の県連理事会でも、こうした議論を受けて、教育部の県登研のテーマとして県連盟全体の課題としてはどうか、という問題提起がなされた、というのがこれまでの経過なので、特に、定まったものはない。

飯田（おやこ）：報告や討論とは少しずれるが、以前、おやこ山の会の会員だったNさんが石巻在住で、先の東日本大震災で被災した。婦人部をはじめとした仲間の呼びかけで多くの義捐金をいただいた。本人からも感謝を伝えてほしいという伝言があった。この場を借りて、お礼を申し上げたい。

長谷（あつた）：事故に対しての意見だが、転倒、滑落、スリップなどの事故を見ると、それらを起こすひとは常習者ではないか、という感じを受ける。失敗を学習しない、ひとの話を聞かない、そういう人に対しては、最初から最後まで同じ注意をし続けているという状況がある。学習していない。再発防止のためには、「いかにして話を聞かせるか」ということが課題だと思う。

榊原（ありんこ）：遭対部で、安全や事故についての報告が『労山愛知』でなされているが、事故の概要など、書いてあることしかわからない。「こういう原因なので気をつけましょう」などといった注意喚起がなされるとありがたい。

A1：『労山愛知』では事故事例について報告するとともに、担当者会議でだされた重要な指摘や注意事項についてはその末尾に掲載することになっている。

A2：事故事例についてはケース・バイ・ケースのことが多く、一概に「これが原因」「これが対策」という短絡的な書き方ができない。

榊原（ありんこ）：「個人会員制度第2次案」の教育の基本方針について触れられた部分がある。ここでは「教育スタンダード」を基本にすると書かれているが、この「教育スタンダード」があれば見せて欲しい。

A1：残念ながら、その存在を知らない。見たこともなければ、あることも知らない。

A2：ここに「現在作成中」とカッコ書きがある。

A3：まだ、導入の可否についても決められていない「(案)」の中に、作成中の「スタンダード」まですでに存在するかのようなかたちで具体的な記述がなされている。労山の機関誌として位置づけられている『登山時報』にこのようなかたちで掲載されてしまうと、もう決まってしまうかのような錯覚を起こさせる。このやり方はアンフェア。幸か不幸か、『登山時報』の有料購読者数がそれほど多いわけではないので、ほとんどの会員が見ていない、ということは言えるが。

長谷（あつた）：自然保護部の報告で、藤原岳の鉱区拡張の計画が出されていることがわかったが、この拡張に対する「アセス」について、自然保護部としてはどう対応していくのか。また、自然保護部としての方向、主張などについては行政が発行する広報誌などを使ってはどうか。

A：藤原岳の鉱区を広げるという問題については9月11日に申請の締め切り、年内に知事の認可が下りるという段取りだそうだが、これについては、経済活動の面からはやむを得ない、行政のアセスをしっかりとやらせるべきだ、などという意見も出されたが、われわれが考える視点として「守るべき“自然”とは何か？」ということだと思う。

吉川（同志会）：愛知県連の清掃登山だが、春に何百人、千人の単位で一つの山域で継続して清掃登山を実施してきている、秋にも各会合同で継続して清掃登山を実施し続けてきている連盟は他にはない。こうした取り組みと、これまで行ってきたササ枯れ調査は、愛知県連の自然保護活動の到達点といえる。5年間の調査でなにがわかったのか、という疑問もあるが「わからない、ということがわかった」ということだ。その延長として鈴鹿での自然観察会の実施などが行われている。自然に関心を持つ登山者をどう育てるか、ということが自然保護部の活動の大きな課題だ。

樋江井（若駒）：清掃登山で中道からあがって裏道を下った。登山者が集中して渋滞。無所属の登山者が渋滞についていらだちを見せていたが、われわれはその時間を使って、清掃登山の意味や取り組みについて話をした。一方では、こうした渋滞についての配慮が必要だと思う。も

う一方では、こうした登山者にきちんと話をしていくことが大切だと思う。

広畑（あつた）：婦人部の総括では、第一回の「つどい」で婦人部の活動の位置づけの確認がされている。毎年こうした位置づけの確認をしなければならないのか。

A1：愛知県連の婦人部は全国の中でも独自の位置づけがなされている。他の地方連盟では、女性担当者を出して取り組みについて話をするのだが、愛知県連では、会員の半数以上が女性であり、そのひとりひとりが婦人部を構成しているので、「女性担当者」ではないこと、県連盟の女性の要求をくみ上げ、自分たちの力量の底上げを図ることを確認している。

A2：婦人部に限らず、自然保護部でも遭対部でも、それぞれの専門部の位置づけ、取り組みの意義と役割について、その都度確認しながらやっていくということは前提だ。あたり前のこととして、そうした確認をしないまま取り組みを進めると、齟齬をきたしたり、進む方向が変わってしまうことがある。毎年、メンバーの顔ぶれが変わる任意の団体が、何かを一つをはしょると、そのままそれが前提となって、ないものとして扱われ、元に戻すのに大変な労力を必要とする、そういう組織なので、こういう原則的な対応が必要なのだ。

飯田（おやこ）：放射能汚染について、自然保護部としてどうとらえているか？

倉田（東海）：個人会員制度の山行管理を見ていると、全国連盟だけでの対応はとても無理だと思う。地方連盟が協力して働かざるざるをえないことになると思う。ひとが増えて、いっぱい救助に出動しな

ければならない場合でも、顔もしらない
どういう人か知らないひとの救助はやり
たくない。登山者の教育もインターネット
では不可能だと思う。

北川(くらら): 登山者の最初の教育を経
た会員の面倒は県連盟が面倒をみるこ
とになる。全国連盟から事務費をもらっ
たとしても、それだけではとても。会員の
会費を回さざるを得ない、という資金面
での心配もある。

亀井(同志会): 9月の運営委員会で議論
した。お金と人的派遣の問題が心配だ
という話になった。事故で救助要請があ
った場合、近くの団体に要請しなければ回
らない。一体だれがやるんだという問題
がある。不安がある限り賛成できない。

飯田(おやこ): 10人の会員の中で5人の
会員で読み合わせをした。対応する人が
たくさん要る。山へ行く「会員」の力量
がわからない。個人会員専門のひとが要
る。パソコンを誰が使うか、そんな話と、
計画書については、「届けるだけに終わ
る」、ルールを守るかなあ、という問題が
ある。労山の理念では「登山を文化とし
てとらえている」が、これは「文化」で
はない、仲間ではない、という意見も出
た。

長谷(あつた): 個人会員制を入れるのは
反対。家族集団に単身者集団が入って
くる、いわば鵜合の衆で、うまくやって
いけるか。個人会員を二年間で一万人、
というのは、財政的に裏付けした数字だ
と思うが、今の労山で一万人集めたらよ
いではないか、PRの仕方で変わってくる。
このまま組み入れるのは反対だ。

徳永(ふわく): 会としての意見はまだま
とまっていない。ただ、組織が同居して
も成り立たない。事務上も仕事が増える。
本部が強行しても、県としてやらない方
が得策だと思う。

加藤(ちんぐるま): ぜひ反対してきて欲
しい。われわれの連盟費から制度を作る
ためのお金は使ってほしくない。仲間と
いうのはわずらわしい、という風潮に傾
きかけてきていた社会が、「きずな」とか
「連帯」の意味を見つめ直す状況に変わ
ってきた。世間の風とは逆方向に行くこ
とになる。

脇田(じねんじょ): この間の意見から
いうと反対が多い。会を基礎とした組織が
個人会員制度と一単位になるには無理が
ある、個人会員制度に対応している余裕
はないこと、遭対基金への影響の心配が
あること、安全管理のところでも果たし
て管理できるか、という不安、問題があ
る。導入するんだ、となった場合、県連
単単位で拒否できるようにできないか。

二宮(みどり): 運営委員会のなかでは検
討していない。個人としてはこのやり方
に憤りを感じている。私たちが集まって
検討したことを全国連盟は知っているの
か、教育、山行管理、安全対策など問題
が多い。強行する全国連盟であればいる
意味がないな、と思う。もっと地方連盟
の意見を聞くべきだ。

天池(アリス): 反対。山岳会では、入会
の条件その他、個人関係が明確。ネット
では人となりは把握できない。知識・技
術の習得もできないし、財政面も含めて
問題が出てくる。

前田(春日井峠):会では反対。ネットで集めた仲間で、果たして安全登山がうまくいくかという点や、今の登山者のマナーの悪さ、そのマナーの教育が可能か、という点。

徳永(ふわく):個人会員で組織化が可能ならば、はじめから(今の山岳会で)組織化すれば?

馬嶋(あつた):「何もしないよりはやった方がいいんじゃないか」という意見もあるが、もっと山岳会の魅力をPRしたら。

望月(ふわく):なぜ、提案があったか、そのところが釈然としない。

伊藤(マップ):会として話し合った。反対。声も顔も人格もわからないひとたちの面倒はみたくありません。

榊原(ありんこ):運営委員会で中身はお知らせ程度。組織的な議論はまだしていないが、「案」では山行管理システムのところに3名を置く、としているが、やれるか?ということと、救助要請が北ら困るな、と思う。一方で、未組織登山者の教育は必要では…。

A:それが、いまどき小学生でもやらないような「こじつけ」だと思う。だって、未組織登山者への呼びかけ、教育の試みなどはこれまで、みんながやってきたではないか、各会や労山のいろいろな場面でそのひと要請について呼びかけ、実際に講習会なんかで、教育の努力をしてきたのではないのか?

吉川(同志会):今日海上の森で実施され

ている各会合同清掃登山では、あつた、くらら、ASC、アリス、それに東海学生ワウンダーフォーゲルなんかに参加して中間集計のところでは参加者173名、産業廃棄物含めて回収したゴミは730kgという報告が来ている。

西尾(くらら):個人会員制度の提案だが、ドイツ山岳会とは異なる風土、土壌。私たちの登山は、「安全に登山する」「戻ってきてはじめてこういういい山をやった」そういう山行だ。海外の形態を導入する個人会員制度では、とても望めない。なんでこれだけの努力をする力を、現在の会員拡大に咲くことができないのか。進め方は大きな問題だと思う。

赤塚(スルジェ):なんでこんなことをやるんだ、という思い。中身が不明確だから、地方連盟からはもっと具体的な提案を、ということになる。原則的なことについては伏せているけれど、導入提起の理由としては、「組織人員が減って、高齢化が進んでいる」ということだろうが、労山の組織原則やあり方と矛盾した提案。県連の提起の方向で進んで行って欲しい。

北川(くらら):今月で会員数70名になった。これまで平均年齢はアップしてきたが今、少し下がってきている。若いひとが増えてきている。リーダーの育成、山行の充実が求められる。個人会員制度よりも、やり方を変えれば会員拡大は可能だと思っている。

【代表者会議出席者】

洞井・山中・板津(半田F)、佐藤・長谷・馬嶋・広畑(あつた)、足立・樋江井(若駒)、吉川・亀井(同志会)、望月・馬場・徳永(ふわく)、二宮・原田(みどり)、

西尾・北川（くらら）天池（アリス）、黒田・伊藤（マップ）、飯田（おやこ）、佐々木・前田（春日井峠）、江島・脇田（じねんじょ）、松野・赤塚（スルジェ）、加藤

（ちんぐるま）、倉田（東海）、高士・榊原（ありんこ）、内橋（東三河）、宮田（ASC）

婦人部

第2回交流登山実行委員会が開かれました

2011年10月6日（木）19時から県連事務所で第2回実行委員会が開かれました。参加者は、森（アリス）、平尾（あつた）、尾崎（ASC）、西尾・萩原（くらら）、鈴木・河村・佐々木（峠）、辻村（ふわく）、山中（半田）、下山・二宮（みどり）8山岳会12名でした。

講師への依頼も終了し、「交流登山お知らせ」のように交流登山の内容を決めました。

実行委員会では7名が参加して9月29日（木）に現地（明神山・山の学校）の下見をしました。明神山は岩場の多いコースで山の歩き方の実習には良いコースです。また、山の学校は4年前まで小学校として使われていてきれいで広々としていました。

各会への呼びかけと現在の参加状況の確認をしました。7～8名（あつた）5（半田）5（みどり）5（ふわく）6（くらら）5うち講習のみ1（ASC）2（峠）で、早くも7山岳会37名でした。申し込みの締め切りは10月末です。会名、氏名、年齢、性別、血液型、遭対口数、住所、電話番号、フトン借用の有無を山中さん（半田）にメールで送るようにお願いします。

交通機関については、当初昨年同様現地集合としていましたが、辻村さん（ふわく）からマイクロバスを利用する提案があって、ふわく、峠、あつた、ASCが利用する方向で検討しています。外にマイクロバスを利用したい会は連絡してください。

次に、予算について検討しました。宿泊費が昨年よりも高いので、講師謝礼や食費を切り詰めることになりました。夕食の鍋に入れる野菜や漬物など提供してくださる方、大歓迎です。

続いて当日の任務分担とスケジュールの確認をしました。

次回の第3回実行委員会は、11月10日（木）19時から県連事務所で

班分け、部屋割り、当日のパンフレット印刷と製本など行います。まだ実行委員に参加していない会は是非参加して協力してください。

= 講習会のお知らせ =

「転倒防止のために、反射神経とバランス力を鍛えよう」12月13日（火）19時半～

7月に講師の健康上の都合で流れてしまっていた稲垣先生の「転倒防止のために、反射神経とバランス力を鍛えよう」は、12月13日（火）19時半から県連事務所で開催することになりました。年末で何かと気ぜわしくなりますが、是非ご参加くだ

さい。

▲当日持参するもの……テントマット、タオル、水、運動靴、ジャージなど動きやすい服装で参加してください。

婦人部 交流登山のお知らせ

県連婦人部

登山の基本(読図・山の歩き方)をしっかり学び、道迷いや転倒事故を防止することを目的として「交流登山」を実施します。老若男女を問わずどなたでも参加できます。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

日時 2011年11月19日(土)～20日(日)
場所 栗代山の学校 山の学校事務所：愛知県北設楽郡東栄町栗代宮平9
Tel (0536) 78-5302
参加定員 50名(老若男女を問いません)
参加費 2,500円(夕食代込み、貸しフトン代900円プラス)交通費は各自負担)

日程 **11月19日(土)**
9:00 受付
9:30～ オリエンテーション
10:00～12:00 **講習「読図・コンパスの使い方」**
講師／鈴木 浩(ふわく山の会)
13:00～14:30 **講演「転ばない山の歩き方」**
講師／洞井 孝雄(県連理事長)
15:00～16:30 **講演「山の雑話」** 草笛の演奏
講師／久保田孝夫(ふわく山の会)
夜……夕食と星の観察会(ギャラッド彗星を見よう)交流会

11月20日(日)
「明神山」へ**交流登山** 三ツ瀬コースピストンを予定しています。
学んだこと(読図・岩場の上り下りなど)を実践し、交流します。

*申し込みは10月末までに、各会の理事まで。

自然保護部

9月15日 第4回自然保護担当者会議を開催しました

【出席者】鈴木(じねんじょ)、坂倉(アリス)、長尾(みどり)、成田・北川(くらら)、喜来(ASC)、野沢・松野(スルジェ)、広畑(あつた)、服部(ふわく)、吉川(同志会)、千田(半田F) 10山岳会12名

1) 各会合同鈴鹿山系自然観察会 報告

8月28日藤原岳にて実施しました。今回は講師として藤原岳自然科学館の紹介で、市川氏・山脇氏の参加をいただきました。参加者は、あつた3名、同志会8名、じねんじょ1名、みどり1名、春日井4名、くらら1名、計18名。

登山道や山頂付近で、オオハンゲ、ナツエビネ、ツルシキミ、カマツカ、アブラチャン、カワチブシ、ビワコエビラフジ、マツカゼソウ、ゴマキ、ヤマジ、マユミなどを教えていただいた。また、シカが食べない植物としては、オーレンシダ、イワヒメワラビ、ゴマナ、ダントボロギクなどとのこと。

藤原岳では石灰岩の採掘鉱区を広げる計画が進んでいて、計画の環境アセスメント調査結果が縦覧がされていて9月1日がこれに対する意見書の提出期限とのことでした。知事の採掘許可が早ければ年内にもされる、とのことでした。

2) 秋の各会合同清掃登山の実施について、

別表の様に各会のそれぞれの山域で実施されています。残りの計画にも是非参加を。

各山域の準備と実施状況は下記のとおりです。

①定光寺——じねんじょ、同志会

二山岳会の予定通りの参加者が得られた。一般の参加は各会より短い登山ルートで実行委員がついて行った。東海自然歩道・登山道は綺麗だったが、道路沿い、林道の入り口などにゴミが多い。金庫などもあり、市には撤去を申し入れている。

軍手60、ゴミ袋60が市から提供されている。当日は瀬戸物祭りの日だが、他の日程が難しい。瀬戸市の広報に掲載され、後援を得ている。

②武豊自然公園——半田F

10月1日下見の予定。会での登山教室のカリキュラムの一つに入っている。

③継鹿尾山・栗栖山——ふわく

5年連続で鳩吹山で実施している。犬山市長と職員3名が下山集会に参加予定。

犬山市のクリーン事業の一環で活動し、ゴミ袋の供与はされる見込み。

100名の参加できる場所としては鉄道沿線に限られる。

④海上の森——あつた、くらら、名古屋ASC

8月26日合同打合せ

8月27日事前の海上の森センターとの打合、協力要請し軽トラックが貸し出される。

9月11日下見山行実施。あつた、くらら、東海ワンダーフォーゲル、21名。

6コース実施で、CL・SLを決めている。熊が出ているとの情報がある。

下刈りがされていない。

宣伝は、ポスターとA4版チラシを作成し、海上の森センター、駅前アルプス、ステラアルピーナ、石井スポーツ、好日山荘、SWEN徳重店などに200枚置いている。

9月23日中日ホームサービスに紹介記事が掲載された。

⑤猿投山——みどり山の会、

昨年同様、猿投山にて計画する。昨年の経緯から市との交渉は難攻が予想されるが、支所などとも協議をしている。

当日は朝7時より駐車場に机を置き、横断幕を張って一般参加者の呼びかけを行う。

3) 各会代表者会議の報告について

担当者会議にて、代表者への報告の文書を配布しました。

4) 水質検査の日程と分担について、次の会で分担して実施します

今年の秋、11月12日(土) くらら、春日井峠

2012年春、(日程は未定) スルジェ、くらら、あつた

5) 全国連盟第14回自然保護教室「上高地の自然環境・植生はどう変化してきたか」

9月17日上高地にて開催され、同志会より1名参加しました。

6) 今後の日程

10月13日(木) 第5回自然保護担当者会議

11月12日(土) 御在所岳水質調査

11月17日(木) 第6回自然保護担当者会議

11月19～20日 全国自然保護担当者会議、栃木県日光市

「自然公園・山岳地帯でのシカの植生被害の実態とその対策について」

松野(スルジェ)、広畑(あつた)参加予定。

鈴鹿自然観察会 実施報告 藤原岳(1144m) 三重県いなべ市

日時 : 2011年8月28日(日)

参加者 : 同志会8名・くらら1名・あつた3名・じねんじょ1名・みどり1名・春日井4名計18名
藤原岳自然科学館より紹介の講師の方2名の合計18名。

当初の予定は御池岳だったが、国道が通行止めになっていて鞍掛峠に上がれないといこと、今回は鈴鹿山脈の北端藤原岳での自然観察会を実施した。

大貝戸登山口より登り始め8:50には三合目に着く。その間先生が珍しいオオハンゲや

ナツエビネを見つけ、特徴や生態を解説してくださる

四合目で休憩。この辺はモミジが多く、オオモミジとの違いを先生が説明してくださったが、次にどこかでもみじに出会っても、違いはきっと私には分からないなあと思ってしまった。そして休憩中も気が気ではないのがヒルで、常に足元をチェックしながらなので、何だか落ち着かない。

八合目の2度目の休憩まで順調に進む。途中いたところで先生が草木の説明を熱心してくださり、はじめて聞く草木も多く各々メモしたり写真をとったりした。ちなみにこの間にはツルシキミ・カマツカ・アブラチャン・カワチブシ・ビワコエビラフジ・マツカゼソウ・ゴマキ・ヤマジ・マユミ等が観られた。

山荘のある九合目で昼食をとり、先行していた春日井の4名と合流して、12:10に山頂のある展望丘目指して出発。稜線沿いの道を15分程で展望丘に着く。お天気がよければ鈴鹿の山々が一望できるはずだが、生憎ガスっていて眺望はは期待していなかったが予想通りだった。

山頂周辺はカルスト地形のゆったりとした丘が広がっているのだが、今回は天狗岩の方へは行かず、先生の案内で反対側の踏み跡もあまりない道を1時間程散策して山荘へ戻った。途中、鹿に数頭出会い、鹿が食べ尽くした後地に咲くダンドボロギクという力強い花や超貴重なヒメニラも教えていただいた。先生には藤原岳は石灰石の大規模な鉦山であるため採石が進み、このままではいずれ山荘から山頂までの道も、展望丘から歩いて見た周辺の山々もなくなってしまうと聞いうお話も聞いた。考えさせられることが多かった。

山荘から下山すること2時間程で登山口に到着。解散。

遭対部

第10回東海ブロック雪崩講習会を実施します

東海ブロックの雪崩講習会も今年で10年目になります。

雪山に入る上で一番気をつけなければならないのは雪崩であり、山の難度に関係なく斜面と雪と気象条件さえ合えばどんなところでも起こりうる危険があります。雪崩を完璧に予測することは難しく、今までに多くの経験豊かな人たちが犠牲になっています。

雪山にでかける以上、雪崩の知識は必要不可欠であり、連盟員が雪崩事故に遭わないために、雪崩の基本的な知識の普及に努めていくことが、連盟の責務だと考えています。

一緒に雪崩について学びましょう！！

第10回東海ブロック雪崩講習会を実施します

低山からアルプスまで、雪が積もっている斜面ならどこでも雪崩の危険性があります。

では、どうしたら雪崩に遭わないのか？ 遭ってしまったらどうしたらいいのか？

机上講習ではそんな疑問に応える内容で、実技講習では少人数グループで実際に体験しながら、雪崩のメカニズムや判断基準、レスキューについて学習を進めていきます。

雪山へ入る仲間とともに、是非ご参加ください。

■ 机上講習

日 時：2011年11月26日(土)～27日(日)

26日 10時～16時30分 雪崩のメカニズム・雪質

27日 9時～12時 ビーコンの特性と使い方等(ビーコンは各自持参)

実技講習に参加される人は26日～27日の机上講習に必ず参加して下さい。

2日間の参加が難しい方は、その旨をご連絡願います

場 所：愛知県勤労者山岳連盟事務所(地下鉄名港線六番町3番出口から徒歩10分)
(名古屋市中川区十番町2-8 栄和産業(株)ビル2階 電話&FAX：052-654-1210)

内 容：雪崩ってなに？ どうして起こるの？(雪崩についての基礎知識)
雪崩に遭ったらどうしたらいいの？(雪崩捜索救助の基礎知識)

参加費：2000円(27日のビーコン操作のみの方は500円)

■ 実技講習

日 時：2012年1月28日(土)朝～29日(日)15時頃解散予定

場 所：講習会は御嶽山 田の原ゴンドラ終点付近を予定
宿泊は施設 名古屋おんたけ休暇村

内 容：積雪の多い御嶽山で実際に雪を見て、雪崩の判断をしてみよう。
雪崩捜索救助のしかたを学ぼう。みんなでやってみよう。

参加費：18000円

宿泊費・ゴンドラリフト代を含む、ただし現地までの交通費は各自負担
ビーコン・ゾンデ・スコップは各自準備

申込方法：

所属会・氏名・住所・電話番号・緊急連絡先・生年月日・血液型・遭対口数ならびに参加にあたり、机上のみか実技も受講されるのかを記入して愛知県連盟宛にメール(ホームページに申込用紙あり)、または郵送かFAXで送付してください。

申し込み締め切り 11月22日(火)

連絡先：愛知県連遭対部長の望月敏仁までお願いします。

スケジュール

10月		11月		12月	
1	土		1	火	
2	日	各会代表者会議	2	水	
3	月		3	木	全国評議会
4	火		4	金	理事会15
5	水		5	土	
6	木	女性のつどい6	6	日	
7	金	理事会13	7	月	氷雪技術講習会 机上3
8	土		8	火	
9	日		9	水	
10	月		10	木	女性のつどい7 自然保護担当6
11	火		11	金	遭対担当4
12	水		12	土	秋の御在所岳水質調査
13	木	自然保護担当5	13	日	
14	金		14	月	氷雪技術講習会 机上4
15	土		15	火	
16	日		16	水	
17	月		17	木	
18	火		18	金	理事会16
19	水		19	土	婦人部交流登山
20	木		20	日	
21	金	理事会14	21	月	
22	土		22	火	
23	日		23	水	
24	月	氷雪技術講習会 机上1	24	木	組織担当6
25	火		25	金	教育担当4
26	水		26	土	東海ブロック 雪崩講習会 机上
27	木		27	日	
28	金		28	月	氷雪技術講習会 机上5
29	土		29	火	
30	日		30	水	
31	月	氷雪技術講習会 机上2			

労山愛知締切:11月11日

ご意見・ご要望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com